高山町野崎の田の神（寛保３年，明和８年）

【所　在　地】肝属郡肝付町野崎大園
【種　　別】県指定有形民俗文化財
【指定年月日】昭和 41 年３月 11 日

２体あり，向って右側のものは寛保３（1743）年，左側のものは明和８（1771）年の造立である。

２体とも像の高さ約 93cm，本城石という凝灰岩を使っている。大きなシキを頭巾ふうに背に垂れたようにかぶる。長袖, 長衣の着流しで袴をつけず紐状の帯を前で結んでいる。長い鍬の柄を立てて両手でおさえている。背のシキの下にワラ苞（ワラをたばね，中に物を包み込むもの）を背負っている。苞にはメシゲが差してある。右側のものは大隅半島にあるこのような特徴を持つ田の神の中で最も古い。

右側のものは顔に損傷があり，半顔になっているが，左側のものは完全で柔和な顔をしている。